

一期生・二期生の先輩方の合格・内定体験記

◇ 佐賀大学 経済学部 経済学科

二期生:文理科(末吉中出身)

私は3年生の2学期から本格的に推薦入試に向けた対策に取り組み始めた。それまで一般入試で勝負しようと考えていた。しかし、チャンスが1回増えたと思うようにして、また親や先生方の後押しもあって、推薦入試を受けることにした。

実際に対策が始まってみると、想像以上に大変な生活を送ることになった。普段の教科の勉強や模試対策などと並行して、推薦入試の勉強を行わなければならないからだ。もちろん推薦入試を受けたからといって、必ずしも合格できる訳ではない。実際、私が受けた推薦入試は倍率が4倍近くあった。落ちたときのことを考えることもあり、勉強するのは精神的にきついものがあった。

小論文や口頭試問の対策は思うように結果が出ず、とても苦労した。しかし、口頭試問に関しては、曾於高校は他の普通科の学校よりも有利であった。その理由は、他学科の先生方からアドバイスを頂いたり、商業科の生徒と一緒に質疑応答の練習をしたりすることができたからだ。このことは本番で大きな自信につながった。他にも友達から経済キーワードに関する質問を受け、ホワイトボードで説明するなど、インプットした情報をアウトプットすることに力を注いだ。試験本番は緊張で普段の力を出せないかもしれないが、このようにすることで少しでもキーワードを絞り出すことができだろうと考え、取り組んだ。

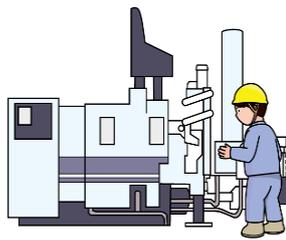
最後に、推薦入試もしくは一般入試を受けるにしても、受験までの時間を上手く使うことが大切であると感じた。私は土日も先生方をお願いをして面接練習などを行った。毎日が大変で嫌になることもあったが、あの時の頑張りが今に現れていて、努力して良かったと思う。後悔のないように後輩も頑張ってもらいたい。

◇ 株式会社淀川製鋼所 市川工場

一期生:機械電子科(松山中出身)

私は株式会社淀川製鋼所市川工場を受験し、無事内定を頂くことができました。

幼少の頃から物作りが好きだったということもあって、本学科に進学し勉学に励みました。進路を決める時期になって、担任の先生から貴社を紹介して頂き、応募を考え



るようになりました。夏休みに実際に工場見学に行き、会社の雰囲気や社員の方々の優しさに心打たれ、受験を決めました。

受験に向けて力を入れたことは、面接練習でした。今まで、あまり前に出て話をする事のない生活をしてきたため、人前で自分の気持ちを伝えることに慣れておらず、最初は苦労しました。しかし、何度も練習を重ねた結果、当日はしっかりと受け答えをすることができました。

後輩の皆さん、今はまだ進路が決定していなくて不安もあると思いますが、自分の将来を決める大事なことなので、後で後悔しないためにも、ゆっくりと自分に合った仕事を探して下さい。

◇ 南九州大学 環境園芸学部

一期生:畜産食農科(末吉中出身)

私は、地域の農業振興に貢献できる農業指導者を目指しています。そのため、高校卒業後は南九州大学環境園芸学部環境園芸学科でトロピカルフルーツの研究を行いたいと考えています。

ユズは柑橘類のなかで耐寒性が最も強く、またそうか病やかいよう病への耐久があるため、ほとんど消毒の必要がありません。このように比較的簡単に栽培ができるため、日本各地で栽培されており、私の住む曾於市は九州最大の生産地です。ユズの果実は酸味が強く生食に向かないため、果皮等を用いた加工品を数多く販売しています。

近年、地球温暖化が進行しており、亜熱帯果樹の栽培可能地域が広がっています。そこで、曾於市の新たな特産品として、果実をおいしく食べられるフルーツに取り組みたいと考えています。曾於高校でも、数種類のトロピカルフルーツの栽培を開始しました。パイナップルを試食しましたが缶詰のものとは違いとても感動しました。

農業を取り巻く環境は厳しいです。しかし、鹿児島県の基幹産業である農業は地域経済に大きな影響を与えるため、農業振興は必要です。私は地元曾於市の農業振興に貢献できる指導者になれるよう、大学で専門的知識や技術を習得するつもりです。

後輩の皆さん、畜産食農科は就職・公務員・大学・専門学校など多様な進路選択ができる学科です。しかし、努力なくしては夢のまま終わってしまいます。早めに目標を定め、それに向かって取り組んでください。

